

「アニヴェルセル 表参道」2023年9月8日(金)リニューアル オープン 乃村工藝社は複数フロアの企画・デザイン・設計・施工を担当しました



乃村工藝社は、2023年9月8日（金）表参道のランドマークとして25周年を迎える“記念日の館”「アニヴェルセル 表参道」リニューアルにて、複数フロアの企画・デザイン・設計・施工を担当いたしました。

プロジェクトコンセプト TOKI MAKE “すべての記念日に祝福を”

大切な人との時をつくる“時をメイク”する、新しい「記念日の館」として生まれ変わった「アニヴェルセル 表参道」10年先も20年先も記念日をお祝いする場所として選んでいただけるために、訪れる度にお客様に新しい発見と素敵な出会いを創出する空間づくりをお手伝いさせていただきました。

乃村工藝社 デザイナー 吉村 峰人 コメント

「結婚式場としてだけの館ではなく、賑わいのある新しい「記念日の館」として生まれ変わりたい。その想いを形にする象徴として『表参道に新たな道をつくりだす』という事を提案させていただきました。時には挙式後の新郎新婦が歩みを進めるこの道を介し、自然と幸せなアニヴェルセルの空気感をより日常的に体感していただき、様々な時が創り出されれば幸いです。新たにリニューアルした各フロアはそれぞれが特色を持ち、自分たちだけの選択肢を広げ創り出す楽しさを表現できる場とし、結婚式場としての利用にとどまらず様々なシーンでご利用いただけます。各フロアの随所に『結ぶ、繋ぐ』というデザインポイントを忍ばせ「記念日の館」としての空間性を表現しています。」



8F / Terrasse テラス

今まで知られていなかった素晴らしい眺望のテラスを持つ最上階のフロアは、大人の好奇心をくすぐる天然素材にこだわった静謐な高級感と軽やかさを併せ持つ空間を目指しました。

自然の美しさがある素材にこだわり抜き、カウンターの木天板は鉄水染めという木の個性が浮かび上がるナチュラルな染色技法を用い、バーカウンターの腰には倉庫に眠っていた良質な無垢材で作られたフローリングの廃材をあえて、フローリングの接合部である、サネ部分を意匠として美しく見せることで、木目を際立たせるとともに、館全体を通して貫いている、“結ぶ・繋ぐ”という事へ対する想いのこもったバーカウンターとしました。

VIP ROOMの壁面には、ウィリアム・モリス氏がデザインしたファブリックを象徴的に使い、ウィリアムモリス氏が制作したステンドグラスが設えられているチャペルから建物全体へ続くストーリー性を表現しています。



7F / Maison メゾン

身近な人との上質な時間が宿る表参道の邸宅『メゾン』として7階を設計しました。より寛いだ親しい距離感で記念の日を過ごしていただけるように淡いピンク色を配合した温かく柔らかな左官壁と表参道並木から繋がる緑色のファブリックで空間を設えました。

空間の主となる素材である壁面の木材はポプラの木を使用しています。

ポプラの語源はラテン語の「人々」を意味するポピュラーを意味するとされ、この木の下に人々が集ったとされています。特注家具は“結ぶ・繋ぐ”をポイントとし、あえて接合部を隠さず意匠的に魅せるデザインやコルク端材のパッチワークデザインなど館を通して一貫している、結ぶ・繋ぐという空間のディテールポイントを設定しています。



4F / Atelier アトリエ

結婚式だからといって華やかな装飾はいらない、だけどシンプルなかただけではつまらない。そんな考えのもと2人が思い描くそれぞれの場を創り上げていく『アトリエ』として4階を設計しました。

華やかな装飾はしてないけどハレの日に相応しい場にするためデザインの軸にしたのが「シンプルだけど奥行きのある素材感」です。色彩豊かな金物の壁面は人の手（職人）によって生み出される奥行き、そして表参道並木から連続するように計画した緑の生み出す自然の美しさの奥行き、この2点が訪れた人の目に留まるように、他の要素をできる限り引き算して構成しています。

壁面いっぱい設えられた引出しや、色鮮やかなガラスとテラゾーが噛み合い支え合う象徴的なカウンターなど、2人だけのオリジナルウェディングを後押しする空間を創り出しました。



1F / Galerie ギャラリー

創業当時から残るアーチ回廊を、25年目を経てより街に拓かれた新たな道に生まれ変わらせることは、アニヴェルセル創業当時の想いを未来へと繋ぐ新たな象徴となるのではないかと。壁を大胆に取払い、空間全体をシームレスに繋ぐとともに、かつてのアニヴェルセルカフェの記憶＝赤いコクリココラー、ここで挙式を上げてくださった方の記憶＝バージンロードのブルーを家具や壁面に配し、フロア全体に空間だけではなく記憶の豊かな繋がりをちりばめました。

柔らかくに反射するブロンズ色の意匠天井は日常がハレの日が変わるの少し贅沢な時間を創り出し、チャペルへと続く回廊床には『記念日の館』＝“結ぶ・繋がる”という想いをこめたリングが繋がりが合う装飾が施されている。家具や特注照明、カウンターの目地色などの細部にも同様の思いが込められています。



別館 / CHAPEL

創業当初からのウィリアム・モリス氏制作のステンドグラスを継承し、美しさをより際立たせることにこだわりました。

列席するゲストの祝福に包まれることで、優しさに包まれるような出発点にふさわしい空間としたい。という想いから、光が特注の布を透過することで、空間全体が柔らかな光に包まれるように現場での実験を幾度と繰り返しました。

ブルーの象徴的なバージンロードの先にある細かな木グラデーションの祭壇は色鮮やかなブルーのバージンロードがステンドグラスの光に溶け込み合い光に昇華していく姿を表現しています。

空間デザイナー紹介



株式会社 乃村工藝社 クリエイティブ本部 第一デザインセンター デザイナー 吉村 峰人

そこにいる人々の心の動き・空気”まるごと”デザインする。

アパレルや時計店などの物販店からレストラン、ホテル、レジデンスデザインまで、ライフスタイルにまつわる空間を幅広く手掛けている。カジュアルから上質でラグジュアリーな表現までを得意とする。素材の質感やストーリーなど、細部まで配慮の行き届いたデザインで空間を創り上げる。



Sky Design Award



HERALBONY
x
HYATT CENTRIC GINZA



THE HOUR GLASS
GINZA



BELLOVISTO



Y部



ANTEPRIMA
CASA CUCINE



YOKOCHAN



デザイナー
清水 良輔



デザイナー
山元 益実



デザイナー
小川 直人

乃村工藝社について <https://www.nomurakougei.co.jp/>

乃村工藝社は、商業施設、ホテル、企業PR施設、ワークプレイス、博覧会、博物館などの企画、デザイン、設計、施工から運営管理までを手掛ける空間の総合プロデュース企業です。グループ全体では、全国9拠点・海外8拠点、国内外6つのグループ会社で事業展開しています。1892年（明治25年）から培ってきた総合力を活かし、フィジカルとバーチャルを融合させた空間価値の提供で、人びとに「歓びと感動」をお届けしています。近年は、持続可能な社会を実現するため、事業活動を通して幸せなインパクトを生み出す「ソーシャルグッド活動」を推進しています。